

学力向上推進事業

学 力 向 上 推 進 協 議 会 報 告 書

～ 誰一人取り残さない教育の実現に向けて ～

静岡県学力向上推進協議会

令和6年3月

巻 頭 言

令和4年3月に静岡県から示された「ふじのくに『有徳の人』づくり大綱」に示されているとおり、「誰一人取り残さない教育の実現」が求められています。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことを期に、各学校では、コロナ禍以前にも増して工夫した行事の企画や授業づくりを推進してきました。また、児童生徒の多様な特性や学習状況等に応じて学習教材や活動内容を工夫するとともに、1人1台端末を活用しながら「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり」を推進していることと思います。

このような状況の中、本年度の全国学力・学習状況調査では、4年ぶりに中学校英語の調査が実施されました。中でも英語「話すこと」調査においてはオンライン方式で実施され、自分の考えとその理由を即時に話す力が必要とされました。また、国語、算数・数学においては、情報と情報の関係を捉えながら自分の考えをまとめる力が求められました。いずれも、1人1台端末を学習ツールとして日常的に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図るとともに、主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりを推進する文部科学省から発せられたメッセージと捉えることができるものでした。

小学校（中学校）学習指導要領解説総則編（平成29年7月）では、『「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すこと』が示され、私たち大人が社会の変化や子供たちの状況を共有し、連携して教育活動を推進することが求められています。本報告書は、誰一人取り残さない教育の実現に向けた具体的な取組やその成果等を示しています。

学校訪問の際には、児童生徒一人一人を尊重し、学校や地域、各種教育機関が連携して個に応じた学習支援に取り組んでいる姿や児童生徒の多様な考えや価値観を認め肯定的な子供観をもって指導に当たる姿を数多く拝見しました。こうした積極的な実践の積み重ねによって、多様な子供たちの個別最適化された学びや創造性を育む学びが寄与され、子供たちの可能性は大きく広がっていくものと思います。

静岡県教育委員会では今年度から2年間の計画で、『誰一人取り残さない教育』の実現に向けた授業づくり、学級づくり調査研究事業』を行っております。本報告書には、県内5校の調査研究指定校の中間報告書がまとめられています。記載されている授業づくりや学級づくり等の取組事例を参考にしながら、各学校の授業づくりや取組の更なる推進に役立てていただけますと幸いです。

今後変化を続ける教育環境に対応し、誰一人取り残さない教育の実現に向けて本報告書が静岡県の子供たち一人一人の成長の一助となることを願うばかりです。

静岡県学力向上推進協議会
会長 村山 功

学力向上推進協議会報告書について

1 本報告書発行の意義

本報告書は、静岡県内の学力向上推進事業について、主に以下の3点を報告するとともに、静岡県内の学力向上に係る取組を広く周知することで、各学校において学校改善・授業改善を促すことを目途にしている。

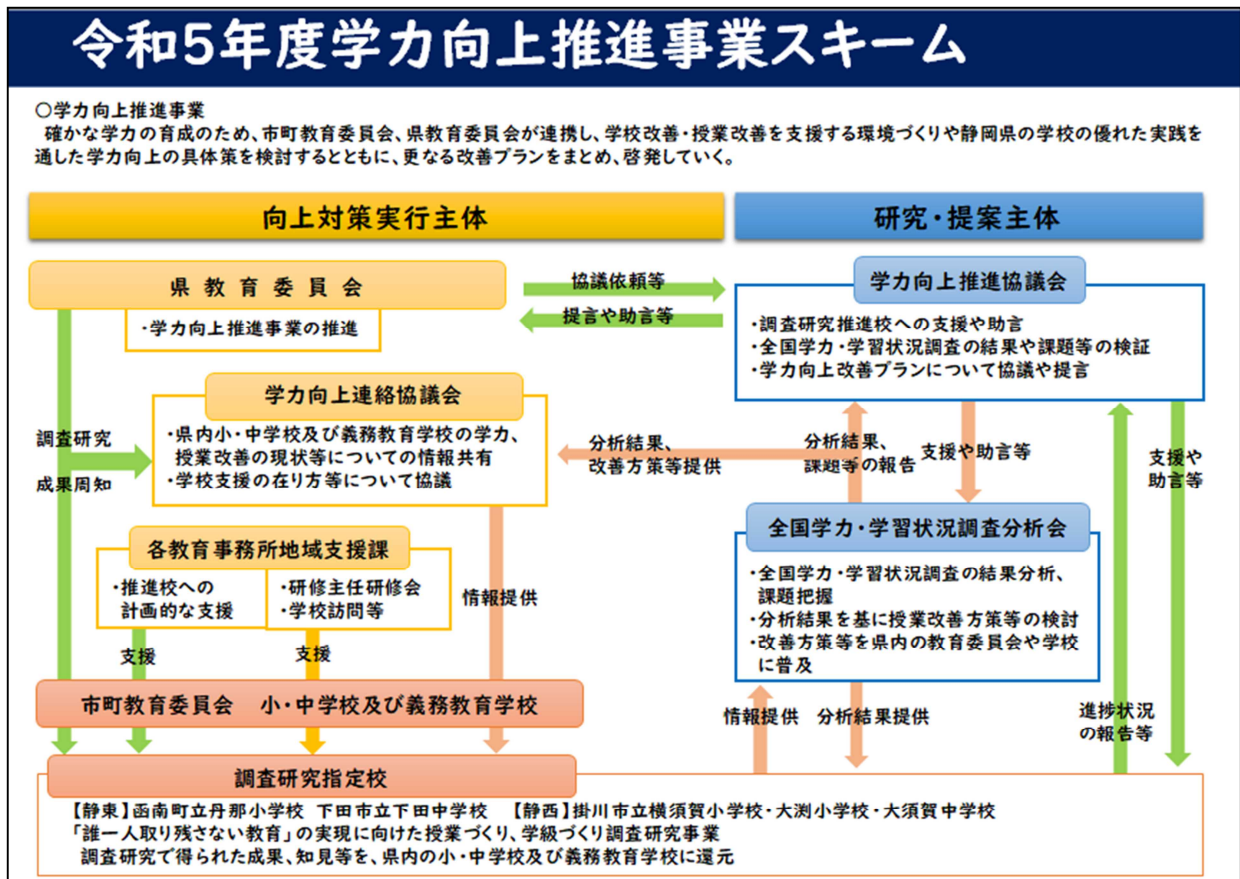
- ・令和5年度全国学力・学習状況調査の概要
- ・令和5年度全国学力・学習状況調査の各教科調査、児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の分析と授業改善案
- ・調査研究事業における調査研究指定校及び調査研究推進地区教育委員会の取組

2 学力向上推進事業における取組の検証について

学力向上推進事業における取組（全国学力・学習状況調査分析会、調査研究事業等）を学力向上推進協議会で協議し、検証を行った。

本報告書の中には、全国学力・学習状況調査の分析と授業改善案、調査研究指定校及び調査研究推進地区教育委員会の取組が報告されているが、いずれも学力向上推進協議会で協議・検証された内容となっている。

令和5年度学力向上推進事業スキーム（全体構想図）



◇ ◇ 目次 ◇ ◇

- ・巻頭言 学力向上推進協議会会長 村山 功 氏
- ・学力向上推進協議会報告書について

1 令和5年度全国学力・学習状況調査について・・・・・・・・・・ 1

- (1) 調査の目的
- (2) 調査実施日・実施学校数・実施人数（政令市、特別支援学校を含む）
- (3) 調査内容
- (4) 調査結果の概要

2 調査問題及び結果の分析・・・・・・・・・・ 4

- (1) 各教科調査の観点別平均正答率等
- (2) 調査問題の概要及び結果の状況と授業改善に向けて
小学校国語、中学校国語、小学校算数、中学校数学、中学校英語
- (3) 質問紙調査の結果分析
主に生活習慣に関すること、主に授業に関すること

3 調査研究事業における取組・・・・・・・・・・ 18

- (1) 実施要領
- (2) 指定校、推進地区教育委員会の取組(中間報告書)
 - ア 共通理解事項
 - イ 函南町
 - (ア) 函南町立丹那小学校
 - (イ) 函南町教育委員会
 - ウ 下田市
 - (ア) 下田市立下田中学校
 - (イ) 下田市教育委員会
 - エ 掛川市
 - (ア) 掛川市立横須賀小学校
 - (イ) 掛川市立大淵小学校
 - (ウ) 掛川市立大須賀中学校
 - (エ) 掛川市教育委員会

掛川市立横須賀小、大淵小、大須賀中学校は、
「若つつじ学園」として、中学校区を指定

1 令和5年度全国学力・学習状況調査について

(1) 調査の目的

文部科学省では、平成19年度から開始した全国学力・学習状況調査（以下、本調査）の目的を、次のように掲げている。

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

本調査は、実施要領に示されているとおり、「測定できるのは学力の特定の一部分ではある」が、児童生徒の学力の3要素が確かに身に付いているかを把握するために客観性の高い重要な調査と言える。

(2) 調査実施日・実施学校数・実施人数（政令市、特別支援学校を含む）

実施日 令和5年4月18日（火）

実施学校数・人数 小学校 486校 児童数（6年）28,889人

中学校 263校 生徒数（3年）26,493人

(3) 調査内容

ア 教科に関する調査

小学校：国語、算数 中学校：国語、数学、英語

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

(ア) 児童生徒に対する調査 … 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等

(イ) 学校に対する調査 … 指導方法、人的・物的な教育条件の整備の状況等

(4) 調査結果の概要

ア 学力に関する調査（教科ごとの平均正答率 単位：％）

小学校			中学校		
区分	静岡県	全国	区分	静岡県	全国
国語	67.0	67.2	国語	70.6	69.8
算数	61.7	62.5	数学	52.3	51.0
			英語	46.8	45.6

イ 学習状況に関する調査

(7) 児童生徒質問紙調査の主な結果

※質問項目の[]内は、中学校への質問 (肯定的な回答の割合 単位は%)

質問項目	小学6年生			中学3年生		
	静岡県	前回比	全国比	静岡県	前回比	全国比
4 自分には、よいところがあると思いますか	85.1	+3.5	+1.6	80.6	+1.3	+0.6
7 将来の夢や目標を持っていますか	82.3	+0.8	+0.8	66.5	-1.5	+0.2
9 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.3	+0.4	+0.4	95.5	-0.6	±0.0
13 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	78.9	+2.2	+2.4	79.5	+0.8	+1.9
16 家で自分で計画を立てて勉強していますか (学校の授業の予習や復習を含む)	72.2	-0.5	+1.5	52.9	-2.9	-2.1
25[29] 今住んでいる地域の行事に参加していますか	63.0	+1.1	+5.2	51.0	-5.0	+13.0
26[30] 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	77.2	新規	+0.4	67.1	新規	+3.2
29[33] 5年生まで[1、2年生のとき]に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか (週1回以上の割合)	90.5	+3.9	+4.2	92.6	+5.6	+5.1
30[34] 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	95.9	+0.7	+0.8	94.6	+0.4	+1.3
31[35] 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)(1時間以上の割合)	18.6	新規	+0.7	13.6	新規	+0.2
36[40] 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか	82.2	+1.5	+0.4	81.8	+1.0	+2.1
37[41] 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか	77.3	-1.2	-0.1	66.7	-6.3	-2.5
38[42] 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか	81.4	(R1) -0.8	-0.5	68.7	(R1) -7.4	-1.2

(4) 学校質問紙調査の主な結果

※質問項目の[]内は、中学校への質問 (肯定的な回答の割合 単位は%)

質問項目	小学校			中学校		
	静岡県	前回比	全国比	静岡県	前回比	全国比
11 調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	80.4	+5.6	-6.1	99.2	+1.6	+0.6
13 学校生活の中で、児童[生徒]一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど) 取組を行いましたか	100.0	+1.0	+1.1	98.8	±0.0	+0.5
18 教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	95.3	(R1) +6.7	-1.0	91.8	(R1) +12.0	-2.3
19 児童[生徒]の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	99.0	+0.6	+2.8	98.9	-0.3	+3.7
20 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	97.8	+3.2	+2.3	91.0	+3.0	+2.5
26 児童[生徒]は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	88.1	+3.4	-0.8	87.5	+0.3	-0.5
39 学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童[生徒]が意思決定できるような指導を行っていますか	93.8	+0.7	+0.7	89.9	-0.8	-2.1
52[60] 前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか(週1回以上の割合)	98.1	+2.2	+9.6	94.6	-1.4	-1.2
67[75] 前年度までに、近隣等の中学校[小学校]と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	74.9	+6.6	+14.3	79.3	+2.2	+12.5
68[76] 前年度までに、近隣等の中学校[小学校]と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか	74.5	+13.7	+16.3	74.6	±0.0	+7.3
71[79] 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	92.1	+1.6	+5.4	89.1	+2.7	+5.9

2 調査問題及び結果の分析

(1) 各教科調査の観点別平均正答率等

小学校

	R5平均正答率(%)		
	静岡県	全国	差
国語	67.0	67.2	-0.2
算数	61.7	62.5	-0.8

【国語】

分類	区分	対象 問題数	R5平均正答率(%)			
			静岡県	全国	差	
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	5	70.4	71.2	-0.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	64.0	63.4	0.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	71.6	72.6	-1.0
		B 書くこと	1	29.2	26.7	2.5
		C 読むこと	3	71.4	71.2	0.2
評価の観点	知識・技能	7	68.6	68.9	-0.3	
	思考・判断・表現	7	65.4	65.5	-0.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	73.1	73.6	-0.5	
	短答式	2	63.2	62.7	0.5	
	記述式	3	51.3	51.1	0.2	

【算数】

分類	区分	対象 問題数	R5平均正答率(%)		
			静岡県	全国	差
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	66.8	67.3	-0.5
	B 図形	4	46.9	48.2	-1.3
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	69.9	70.9	-1.0
	D データの活用	3	65.2	65.5	-0.3
評価の観点	知識・技能	9	66.7	67.2	-0.5
	思考・判断・表現	7	55.3	56.5	-1.2
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	57.5	57.7	-0.2
	短答式	7	74.0	74.7	-0.7
	記述式	4	45.6	47.3	-1.7

中学校

	R5平均正答率(%)		
	静岡県	全国	差
国語	70.8	69.8	0.8
数学	52.3	51.0	1.3
英語	46.8	45.6	1.2

【国語】

分類	区分	対象 問題数	R5平均正答率(%)			
			静岡県	全国	差	
学習指導要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	67.8	67.5	0.3
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	63.4	63.4	0.0
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	76.5	74.7	1.8
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	82.9	82.2	0.7
		B 書くこと	2	64.3	63.2	1.1
C 読むこと		4	65.6	63.7	1.9	
評価の観点	知識・技能	7	70.3	69.4	0.9	
	思考・判断・表現	9	71.1	69.7	1.4	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	7	73.5	73.1	0.4	
	短答式	4	65.9	65.6	0.3	
	記述式	4	70.3	68.0	2.3	

【数学】

分類	区分	対象 問題数	R5平均正答率(%)		
			静岡県	全国	差
学習指導要領の領域	A 数と式	5	65.0	63.0	2.0
	B 図形	3	34.4	33.2	1.2
	C 関数	4	51.7	51.2	0.5
	D データの活用	3	50.0	48.5	1.5
評価の観点	知識・技能	10	56.7	55.7	1.0
	思考・判断・表現	5	43.6	41.6	2.0
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	45.7	45.3	0.4
	短答式	6	64.0	62.6	1.4
	記述式	5	43.6	41.6	2.0

【英語】

分類	区分	対象 問題数	R5平均正答率(%)		
			静岡県	全国	差
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	57.9	58.4	-0.5
	(2) 読むこと	6	53.4	51.2	2.2
	(3) 話すこと [やり取り]	0			
	(4) 話すこと [発表]	0			
	(5) 書くこと	5	25.5	23.4	2.1
評価の観点	知識・技能	9	53.5	51.5	2.0
	思考・判断・表現	8	39.3	38.8	0.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	55.7	54.8	0.9
	短答式	3	32.9	30.1	2.8
	記述式	2	14.4	13.5	0.9

(2) 調査問題の概要及び結果の状況と授業改善に向けて

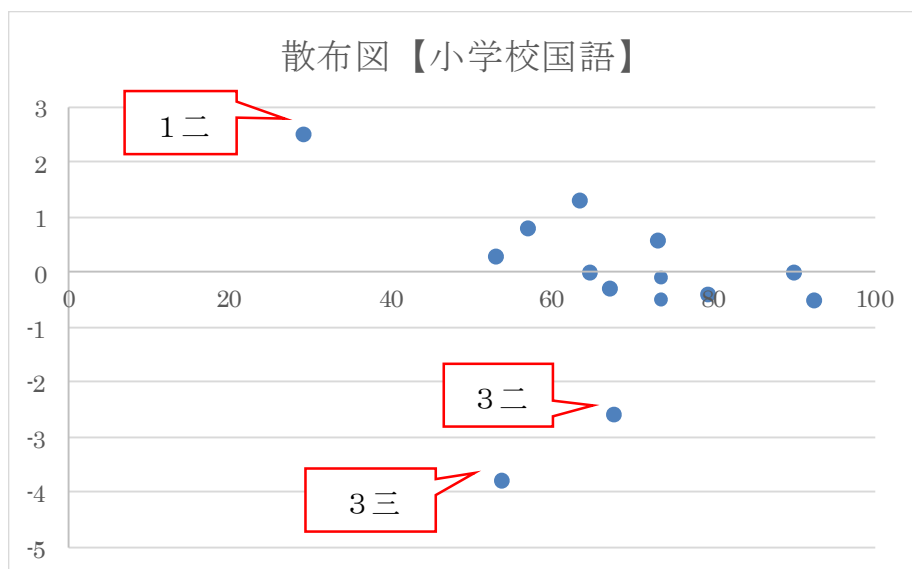
【小学校国語】

1 調査問題の概要及び結果の状況

小学校国語は、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」から5問、「情報の扱い方に関する事項」から2問、「思考力、判断力、表現力等」の「A 話すこと・聞くこと」から3問、「B 書くこと」から1問、「C 読むこと」から3問、計14問が出題された。また、出題形式は選択式が9問、短答式が2問、記述式が3問であった。

各問題における結果は、全国の平均正答率とほぼ同等であったが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」については課題が見られた。

2 設問別正答率の状況



縦軸 静岡県の平均正答率から全国の平均正答率を引いた値
横軸 静岡県の平均正答率

3 課題の見られた問題

問題番号	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	静岡県	全国		
1二 [B]	29.2	26.7	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる
3二 [A]	67.6	70.3	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる
3三 [(1)]	53.8	57.6	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる

1二 「思考力、判断力、表現力等」の「B 書くこと」(選択式)


3二 「思考力、判断力、表現力等」の「A 話すこと・聞くこと」(記述式)

3三 「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」(選択式)

4 授業改善に向けて

課題が見られた「書き表し方の工夫」に関する学習指導では、友達と助言し合いながら、子供自身が自分の文章を何度も見直したり、書き直したりできるようにする指導が大切だと考えられる。また、子供の学習の状況に応じて、教師が図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することが効果的である。なお、引用した図表やグラフの出典については、必ず明記し、引用部分は適切な量になるように指導するとよい。引用については、本文で「図1は～」などといった表現を用いて、自分の述べたいこととの関連を示すことを指導することも考えられる。

国語の結果分析から



【川村さんの文章】のグラフ
【カード④】

学校の米作りの問題点

グラフかカードのどちらか一方から分かることしか取り上げない。

適切に取り上げることができない。


国語の授業改善に向けて

学習指導に当たって

友達と助言し合いながら、**児童自身が自分の文章を何度も見直したり、書き直したりできるようにする指導が大切です。**

児童の学習の状況に応じて、**教師が図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することが効果的です。**

引用した図表やグラフの出典については、必ず明記し、引用部分は適切な量になるように指導しましょう。



令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書(小学校 国語)

16

今年度の「小学校 授業アイデア例」では、川村さんの思考の流れにそって、書き始める場面、情報を整理する場面、記述する場面という3つの場面を取り上げて、指導事例を紹介している。記述する場面において、自分の書いた文章が読みづらいのではと悩んでいる子供がいる場合には、教師は複数の文章を比べることで、図表やグラフなどを用いると自分にとっても考えを深めやすく相手にとってもよく理解できるものになることを実感できるような支援をすることが大切である。

国語の授業改善に向けて

問題点と解決方法に着目して書いてみたけど、読みづらい気がするなあ。どうしたらいいかな。

読む人のことを考えて、悩んでいますね。自分の考えをより分かりやすく伝えるためには、**書き表し方を工夫することが大切**です。資料を用意しましたので、学級全体で考えてみましょう。

A: グラフが入っていない資料

例 学校で起こるけがの問題点とその解決方法がの治りようのために、保健室にきた人数を調査してみました。

7月3日(月)は、1年生が5人、6年生が5人でした。7月5日(水)は、1年生が8人、6年生が5人でした。7月7日(金)は、1年生が11人、6年生が6人でした。6年生のけがをした人数は、ほぼ変わらないのに対して、1年生のけがをした人数が増えていることが分かります。1年生は運動にたがいが出やすく、注意力が低下するかもしれないという問題点が見えてきました。そこで、週末にかけて、校庭と校舎内の見守りの人数を増やすことにしました。

B: グラフが入っている資料

例 学校で起こるけがの問題点とその解決方法がの治りようのために、保健室にきた人数を調査してみました。

右のグラフを見ると、6年生のけがをした人数は、ほぼ変わらないのに対して、1年生のけがをした人数が増えていることが分かります。1年生は週末につかれが出やすく、注意力が低下するかもしれないという問題点が見えてきました。そこで、週末にかけて、校庭と校舎内の見守りの人数を増やすことにしました。

「令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」参考

17

クロス集計から

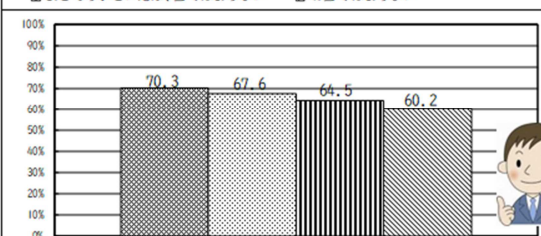
(49) 国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見つけていますか


1. 当てはまる

2. どちらかといえば、当てはまる

3. どちらかといえば、当てはまらない

4. 当てはまらない





18

児童質問紙調査における質問項目「国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見つけていますか」では、肯定的に答えた子供の方が、国語の問題の正答率が高くなっている。このことから、国語科の授業では、書いた文章の感想や意見を友達と伝え合ったり、文章のよいところを見付けたりする学習活動を充実させていくことが重要と考えられる。

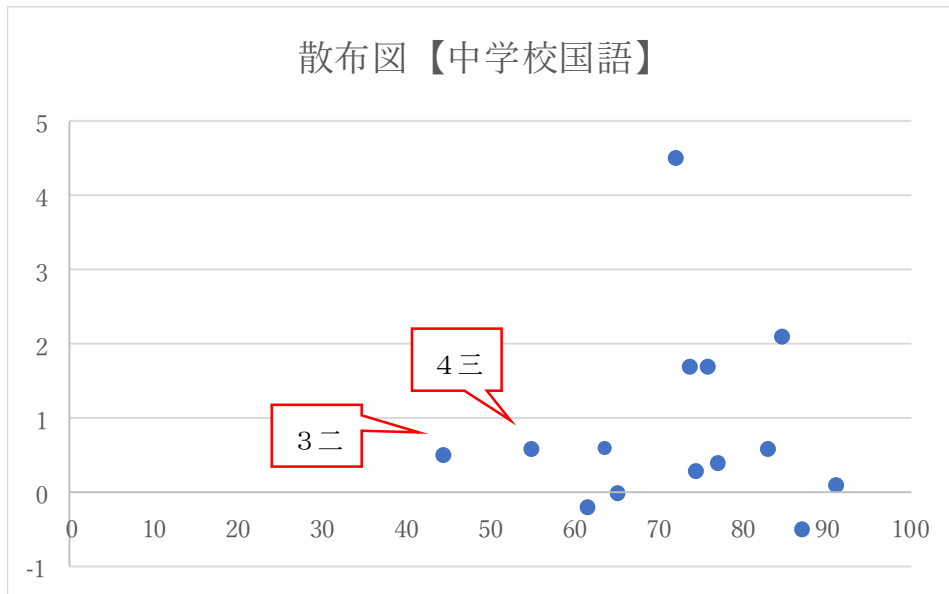
【中学校国語】

1 調査問題の概要及び結果の状況

中学校国語は、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」から2問、「情報の扱い方に関する事項」から2問、「我が国の言語文化に関する事項」から3問、「思考力、判断力、表現力等」の「A 話すこと・聞くこと」から3問、「B 書くこと」から2問、「C 読むこと」から4問が出題された（内1問は2つの内容を兼ねた問題）。また、出題形式は選択式が7問、短答式が4問、記述式が4問の計15問であった。

結果は、すべての学習指導要領の内容（指導事項や領域）で全国の平均正答率を上回る又は同率だった。しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」に課題が見られた。

2 設問別正答率の状況



縦軸 静岡県の平均正答率から全国平均正答率を引いた値

横軸 静岡県の平均正答率

3 課題の見られた問題

問題番号	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	静岡県	全 国		
3二 [(1)]	44.4	43.9	漢字を書く（おし量って）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる
4三 [C]	50.8	50.0	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる

3二 「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」（短答式）

4三 「思考力、判断力、表現力等」の「C 読むこと」（記述式）

4 授業改善に向けて

文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える問題では、現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているのかについて、古典と比較して書くことが求められている。学習指導要領では、古典の指導について、右のように示されており、生徒が古典に親しみをもてるように、原文以外にも分かりやすい教材を用意するなどの工夫が必要である。

国語の結果分析から

中学校における古典の指導は、生徒が古典に親しみをもてるようにすることをねらいとしている。古典の原文は、古文や漢文特有のリズムを味わったり文語のきまりを知ったりする上で有効であるが、**古典の指導は原文でなければ行えないというものではない**。古典の文章の内容を概括したり古典の文章に関する様々な事柄に触れたりするためには、**分かりやすい現代語訳や古典について解説した文章などを教材として適切に取り上げることが必要である**。

20

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 P143

授業では、考えを支える根拠となる具体例を示す際の留意点を確認するなど、「根拠を明確にする」とはどのようなことなのかが理解できるように指導することを心掛け、根拠を明確にすることが苦手な子供でもどこに着目すればよいか分かるようにすることが大切だと考える。

また、〔情報の扱い方に関する事項〕でも、意見と根拠などの情報と情報との関係について理解することを重視している。古典(我が国の言語文化に関する事項(伝統的な言語文化))を学習するときには、古典作品に親しむことを目標としつつ、言語活動の中で「書くこと」や「情報の扱い方に関する事項」とも関連を図ることを考えたい。

国語の授業改善に向けて

学習指導に当たって

意見文を書く際には、自分の考えが伝わる文章になるように、**根拠を明確にすることが大切**である。そのためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認することが必要である。その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけではなく、**根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要**である。根拠を記述するに当たっては、根拠となる複数の事例や専門的な立場からの知見を引用することなどが考えられる。

23

令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書(中学校 国語)

国語の授業改善に向けて

学習指導に当たって

〔情報の扱い方に関する事項〕 中学1年

(1) 原因と結果、**意見と根拠**など情報と情報との関係について理解すること。

〔情報の扱い方に関する事項〕 中学2年

(1) **意見と根拠**、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。

24

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 P23

生徒質問紙調査のクロス集計からも分かるように、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いている子供の方が、国語の問題の正答率が高くなっている。このことから、「複数の事例の中から、どの事例を自分の考えを支える根拠とするのかを検討したり、取り上げる根拠をどのように文章中に記述するかを吟味したりする」学習活動を取り入れ、充実させていくことが大切である。

クロス集計から

(53) 国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていますか。

■ 1. 当てはまる □ 2. どちらかといえば、当てはまる
■ 3. どちらかといえば、当てはまらない □ 4. 当てはまらない

回答	割合 (%)
1. 当てはまる	78.0
2. どちらかといえば、当てはまる	72.1
3. どちらかといえば、当てはまらない	65.6
4. 当てはまらない	58.1

25

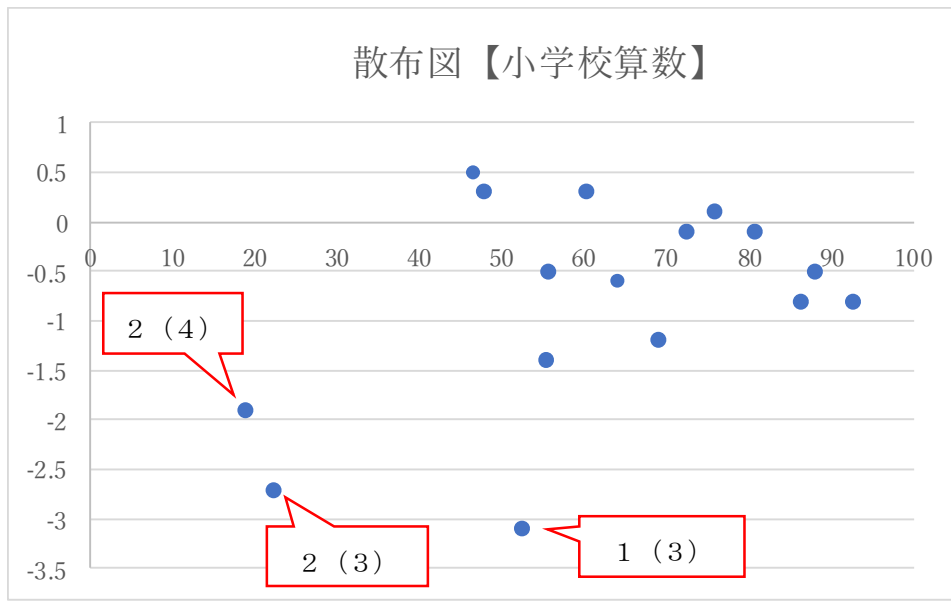
【小学校算数】

1 調査問題及び結果の状況

小学校算数は、領域の「A 数と計算」から6問、「B 図形」から4問、「C 変化と関係」から4問、「D データの活用」から3問の、計16問（内1問はAとDを兼ねた問題）が出題された。また、出題形式は選択式が5問、短答式が7問、記述式が4問であった。

結果は、学習指導要領の内容の全ての領域で全国の平均正答率を下回った。特に「B 図形」「C 変化と関係」領域において課題が見られた。

2 設問別正答率の状況



縦軸 静岡県の平均正答率から全国の平均正答率を引いた値

横軸 静岡県の平均正答率

3 課題の見られた問題

問題番号	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	静岡県	全国		
1 (3) [C]	52.4	55.5	椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる
2 (3) [B]	22.2	24.9	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる
2 (4) [B]	18.9	20.8	テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる

1 (3) 「C 変化と関係」 (記述式)

2 (3) 「B 図形」 (短答式)

2 (4) 「B 図形」 (記述式)


4 授業改善に向けて

算数科で課題が見られた「図形」の授業場面では、示されたいろいろな四角形について、平行などに着目し、共通点を見いだしたり、分類したりする活動が考えられる。その際は、何に着目したのかを明確にし、図形の意味や性質を基に一人一人が説明できるようにすることが大切である。そして、示された図形から、図形の意味や性質を見だし、その意味や性質をもとに図形を弁別できるようにすることが大切である。

子供たちが、二組の辺と二つの辺を混同している場合、それらの表現の違いを理解できるようにすることも大切である。理由や根拠が不十分な場合は、二つの図形をもとに説明してみようと投げ掛けることで、数学的な表現となるように促すことが考えられる。また、理由を明らかにするように促すことで、表現する力を高めたり、考えを整理したりすることにつながると考えられる。

算数の授業改善に向けて

授業場面では



既習の図形と**比較**することを通して
⑦と⑧の図形で共通していることは何かな

平行な直線があるね

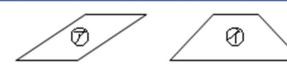
平行な直線があるけど、辺の長さには違いがあるよ

示された図形から、図形の意味や性質を見だし、その意味や性質をもとに**図形を弁別**できるようにする

39

算数の授業改善に向けて

授業場面では



教師が問い返す
2つの辺は、どの辺ですか。

どちらも2つの辺が平行だよ

図でいうと、ここのことだよ

それは2つの辺じゃなくて、1組や2組という言葉を使ったほうが良かったよね

「違い」を実感
確かにそうだね。組を使わないと⑦は4つの辺になっちゃうね

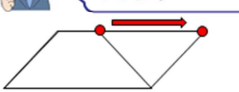
40

図形の指導では、ICTを活用することも考えられる。ICTを活用し図形を動的に変化させることで、図形についての感覚を豊かにしたり、理解を深めたりすることが期待できる。算数科においては、具体的な体験を伴う場面とICTを活用する場面を適切に選択して指導することが必要である。

指導のポイントとして、これまでに学習した図形と比較し、構成する要素やその間の関係に着目して捉え直すことで、新たな性質が見いだされ、統合的・発展的に考察することが重要である。そのような活動を通して、確かな知識及び技能の習得につながっていくと考えられる。

算数の授業改善に向けて

ICTを効果的に活用して
タブレットを操作して、いろいろな図形をかいてみよう



辺の長さを変えると平行四辺形になったよ

図形を動的に変化させることで、理解を深める

言葉（条件）から
1組の辺が平行な四角形をかいてみよう

言葉と図を関連付けることで、感覚を豊かに

41

算数の授業改善に向けて

授業改善のポイント

- これまで学習した図形と比較し、構成する要素やその間の関係に着目して捉え直すことで確かな知識及び技能の習得につながる（統合的・発展的な考え）
- 表現する場面において、理由が曖昧な場合は問い返すことで子供の考えを引き出し、表現力を高めていく

42

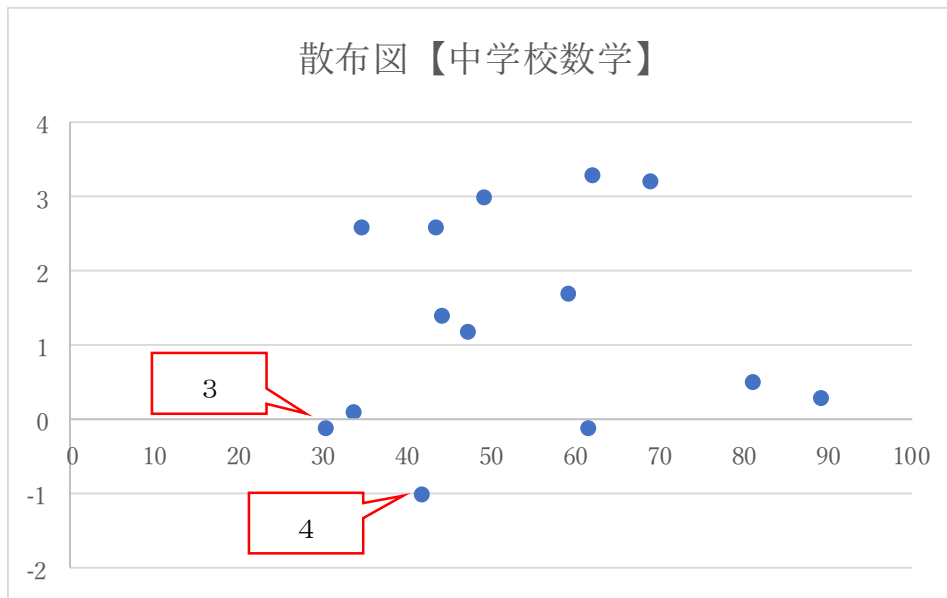
【中学校数学】

1 調査問題及び結果の状況

中学校数学は、領域の「A 数と式」から5問、「B 図形」から3問、「C 関数」から4問、「D データの活用」から3問の、計15問が出題された。また、出題形式は選択式が4問、短答式が6問、記述式が5問であった。

結果は、すべての領域等で全国の平均正答率を上回った。しかし、「B 図形」「C 関数」領域においては、課題が見られた。

2 設問別正答率の状況



縦軸 静岡県の平均正答率から全国平均正答率を引いた値

横軸 静岡県の平均正答率

3 課題の見られた問題

問題番号	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	静岡県	全国		
3 [B]	30.3	30.4	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる
4 [C]	41.8	42.8	yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ	反比例の意味を理解しているかどうかをみる

3 「B 図形」 (選択式)

4 「C 関数」 (選択式)

4 授業改善に向けて

数学科で課題が見られた「図形」の授業場面では、空間における平面が一つに決まるときの条件について、身の回りにある具体物に着目し、観察や操作などの活動を通して、実感を伴いながら理解できるようにすることが大切である。例えば、普段使用する椅子の足の数に着目し、どちらのイスが安定するのかを考察させることが考えられる。その活動を通して、同一直線上にない3点が決めれば平面がただ一つに決まることを、実感を伴って理解することができるようになると考えられる。

課題を解決したところで終わるのではなく、他の条件を考えることで新たな視点で事象を捉え直したり、日常生活と関連付けることや数学のよさを実感できるようにしたりすることも大切である。

数学の授業改善に向けて

授業場面では **身の回りにある具体物に着目して**

三脚のイスと四脚のイスでは何が違うのかな

安定感が違うんじゃないかな

私のイスは四脚だけどグラグラするよ

三脚のイスの方はどう?

あれっ?三脚の方はグラグラしないよ。何で足の数が少なくなるのに、安定するのかな

実感を伴って理解

48

数学の授業改善に向けて

他の条件を考えることを通して

他に平面が1つに決定する条件はあるかな

一つの直線と点や二つの交わる直線でもできそうだよ

新たな視点で捉える

日常生活とのつながりを意識して

身の回りでどのように活用されているかな。

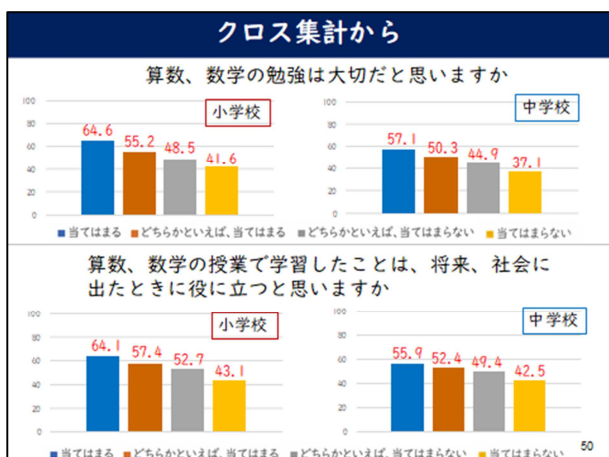
東京スカイツリーの脚は3本、東京タワーは4本だけど、何かつながりがあるのかな。

数学のよさを実感

49

質問紙調査におけるクロス集計からは、「算数、数学の勉強は大切だと思う」「算数、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」の質問に対して、肯定的に捉えている生徒のほうが正答率が高いことが分かった。授業の中で、数学の良さを実感できるようにすることや社会に学習したことが生かされていることを知るためにも、身の回りの事象を扱ったり、数学的活動を重視したりすることが大切であると考えられる。

授業改善のポイントとして、学習指導では、観察や操作などの活動を通して実感を伴って理解できるようにすることや問題解決の結果を振り返って統合的・発展的に考察したり、得られた結果を解釈し、類似の事象にも活用したりするなど、適用範囲を広げることが大切である。



数学の授業改善に向けて

授業改善のポイント

- 空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを**観察や操作などの活動を通して、実感を伴って理解できるようにする**
- 問題解決した後、**解決の結果を振り返って統合的・発展的に考察したり、得られた結果を解釈し、類似の事象にも活用したりして適用範囲を広げる**

51

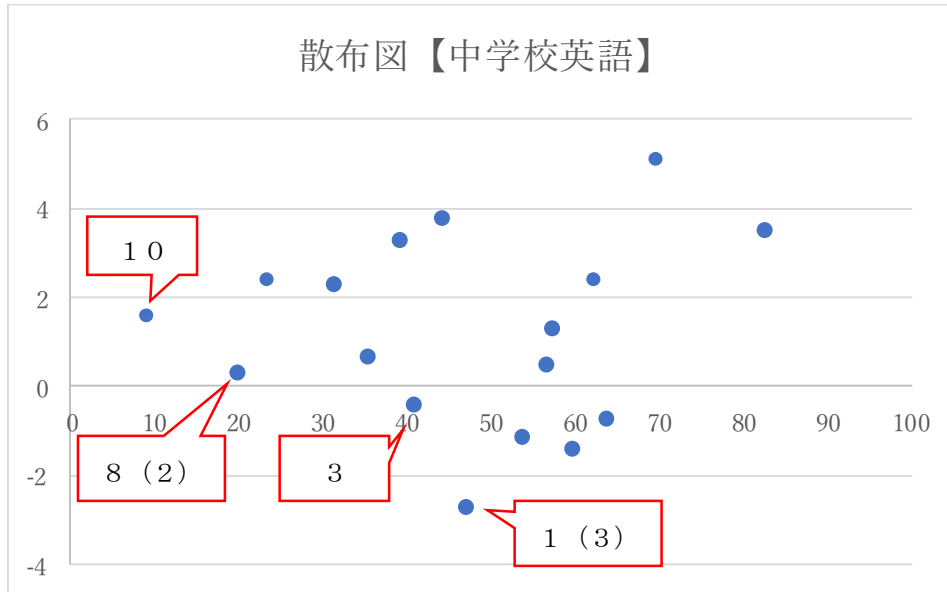
【中学校英語】

1 調査問題及び結果の状況

中学校英語は、領域の「聞くこと」から6問、「読むこと」から6問、「話すこと [やり取り]」から4問、話すこと [発表]」から1問、「書くこと」から5問が出題された。また、出題形式は選択式が12問、短答式が6問、記述式が4問の計22問であった。

結果は、「読むこと」「書くこと」の領域で全国の平均正答率を上回った。しかし、「聞くこと」「書くこと」の領域においては、課題が見られた。「話すこと」の結果については、当日実施校の調査結果をもとにした推定値のため、平均正答率等は比較していない。

2 設問別正答率の状況



縦軸 静岡県の平均正答率から全国の平均正答率を引いた値

横軸 静岡県の平均正答率

3 課題の見られた問題

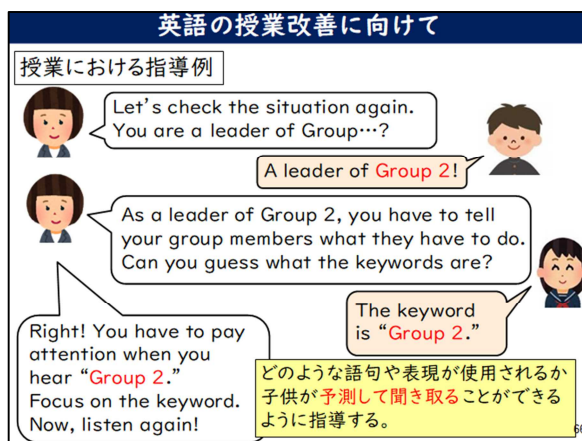
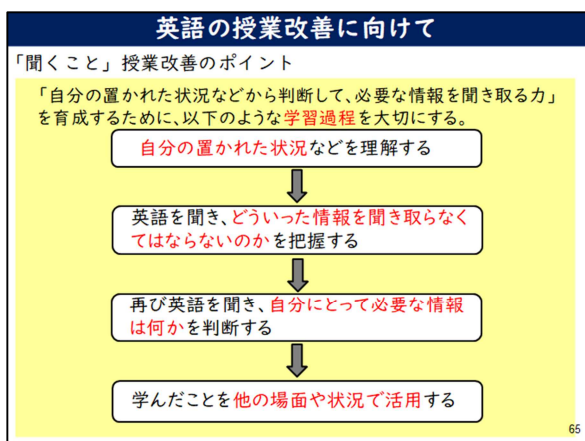
問題番号	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	静岡県	全国		
1 (3) [(1)]	47.1	49.8	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる
3 [(1)]	40.8	41.2	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる
8 (2) [(5)]	19.8	19.5	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる
10 [(5)]	9.0	7.4	学校生活 (行事や部活動など) の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる

- 1 (3) 「聞くこと」 (選択式)
- 3 「聞くこと」 (選択式)
- 8 (2) 「書くこと」 (記述式)
- 10 「書くこと」 (記述式)

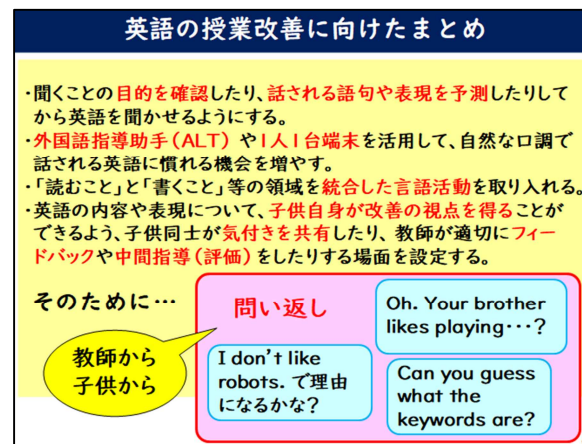
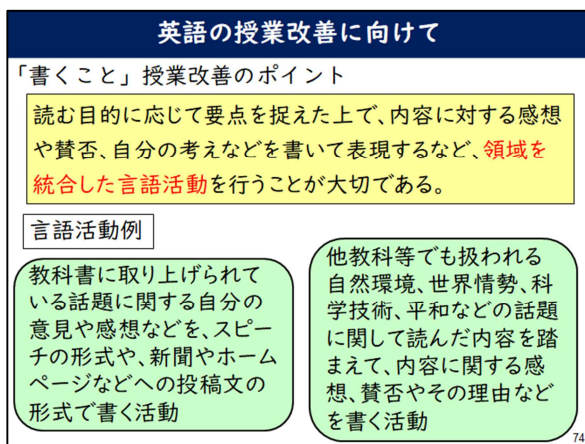
4 授業改善に向けて

「聞くこと」の領域から出題された問題3においては、複数の情報が含まれるまとまりのある内容の英語を聞き、自分の置かれている状況から、何が必要な情報であるのか判断した上で聞き取ることが求められた。また、「書くこと」の領域において、特に「社会的な話題に関して読んだことについて、考えやその理由を書くこと」に課題が見られた。

「聞くこと」の学習指導に当たっては、子供が自分の置かれた状況などから判断し、必要とする情報を目的に応じて聞き取る場面のある学習過程にすることが大切である。例えば、英語を聞き取る活動の前に、子供たちとやり取りをしながら、何を聞き取らなくてはならないのかを捉えさせた上で、どのような語句や表現が使用されるか予測して聞き取ることを指導していくことが考えられる。



「書くこと」の学習指導に当たっては、読む目的に応じて要点を捉えた上で、その内容に対する感想や賛否、その理由などを書いて表現するなど、領域を統合した言語活動を設定していくことが大切である。また、子供が書いた英文を推敲する際には、コミュニケーションを行う目的、場面、状況等に応じて適切な内容になっているか、正確に書くことができているかなどを指導する必要がある。そして、内容や表現について、他の子供からコメントやアドバイスをもらったり、教師が適切にフィードバックを行ったりして、子供自身が改善の視点を得ることができるように促していくことも大切である。



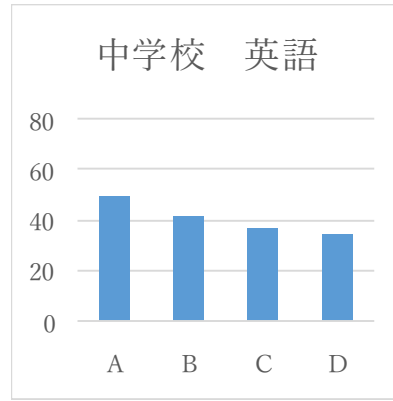
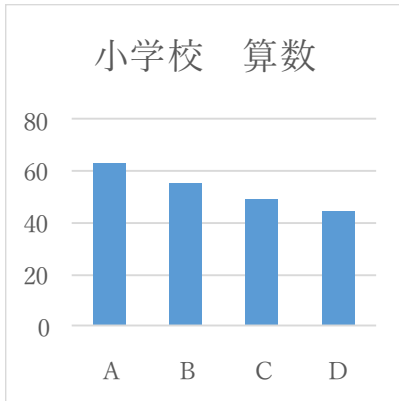
英語科の学習指導において、ALTやタブレット型端末等を活用し、自然な口調で話される英語に慣れる機会を増やすこと、領域を統合した言語活動を取り入れること、子供自身が改善の視点を得ることができるよう、互いの気付きを共有したり、教師のフィードバックや中間指導をしたりする場面を設定することが大切である。

(3) 質問紙調査の結果分析

○学力調査と学習状況調査のクロス集計から、基本的な生活習慣と教科に関する調査結果には、一定の相関関係があることが明らかとなった。

- ・朝食を毎日食べていますか。

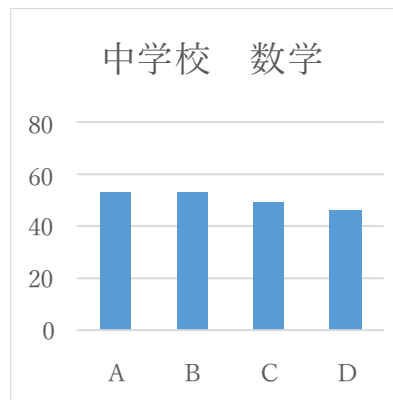
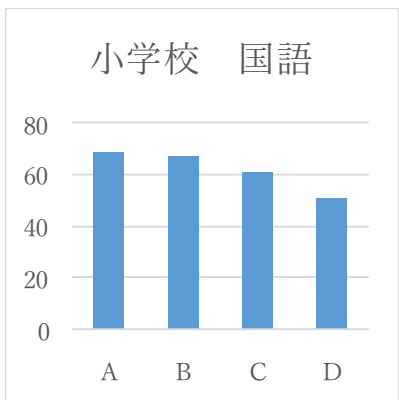
A：している B：どちらかといえば、している C：あまりしていない D：全くしていない



小学校、中学校ともに、学力調査の結果と朝食の摂取には、一定の相関関係がある。

- ・毎日、おなじくらいの時刻に起きていますか。

A：している B：どちらかといえば、している C：あまりしていない D：全くしていない

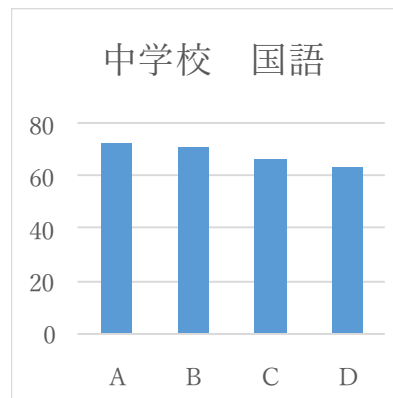
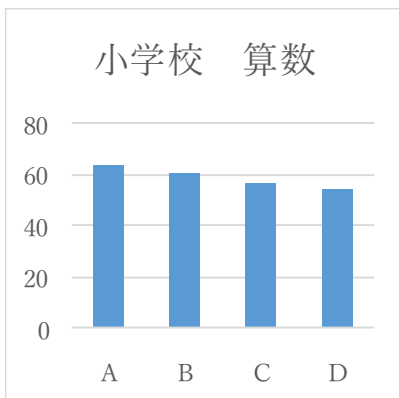


小学校で、より強い相関が見られる。

○学力調査と学習状況調査のクロス集計から、先生方の児童生徒への関わり方と学力調査の結果には、一定の相関関係が見られる。

- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

A：当てはまる B：どちらかといえば、当てはまる C：どちらかといえば、当てはまらない D：当てはまらない



小学校、中学校ともに、一定の相関が見られる。

○学校での ICT 活用については、全国と比較して進んでおり、各学校では授業の様々な場面で、積極的な活用を進めている。

- ・授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか

(単位%)

【小学校】

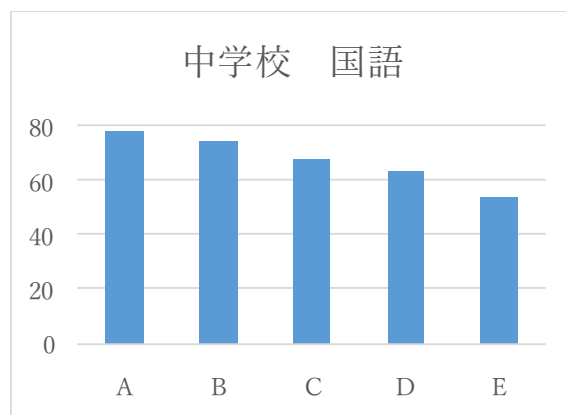
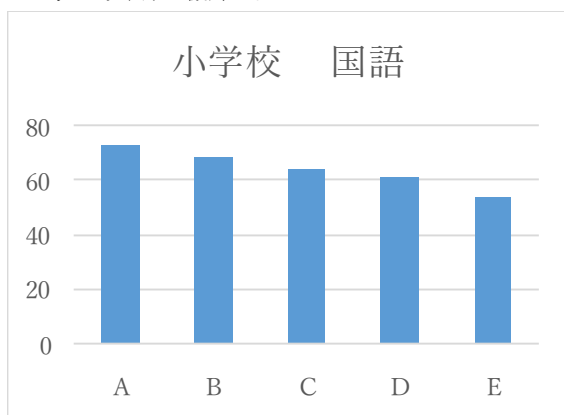
【中学校】

	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上
静岡県(公立)	31.7	36.3	22.5	34.7	34.4	23.5
全国(公立)	28.2	34.2	23.9	28.1	33.0	26.4
全国との差	+3.5	+2.1	-1.4	+6.6	+1.4	-2.9

○授業での子供の主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況と学力調査の結果には、一定の相関関係が見られた。授業では、単元の中で考えを発表する機会や課題の解決に向けて自ら考え、取り組むような機会を意図的・効果的に設けることが大切である。

- ・授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

A: 発表していた B: どちらかといえば、発表していた C: どちらかといえば、発表していなかった D: 発表していなかった E: 考えを発表する機会はなかった



- ・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

A: 当てはまる B: どちらかといえば、当てはまる C: どちらかといえば、当てはまらない D: 当てはまらない

